

挨拶は世界を変える



下諏訪中学校 二年 篠遠 早紀

「石仏の心に響くありがとう」
私の住む下諏訪町には、阿弥陀如来をまつた万治の石仏というものがある。万治三年（一六六〇年）に諏訪大社下社春宮のすぐ傍につくられた。その立ち姿は堂々としていて、圧倒されるものがある。そんな下諏訪の守り神をモチーフにしたポスターが、町内のいたる所に貼られている。内容は、町民に挨拶の推進を呼び掛けるものだ。近年、下諏訪町では挨拶に力を入れている。その成果か、町の雰囲気が見えてきた。住民一人一人の心の交流ができるようになってきたのだ。

しかし、なぜそのような挨拶の推進をするようになったのだろうか。その背景には、町内の小中学校の存在があった。私の学校もその一つで、挨拶は重点目標の中に入っている。全校で先生や部活動の先輩、来校者などに大きな声で挨拶するように心掛けていた。以前、私が校内を歩いていた時、とても感心する出来事があった。その日はどの学級も移動教室が多く休み時間は学校全体が慌ただしかった。私も疲れた気持ちに活力を入れ、急いで廊下を移動していた。すると背後から、「こんにちは」

「こんにちは」聞き慣れない声でした。振り返ると、一学年の男子生徒がいた。彼も移動途中で焦っているように見えたが、すれ違った人全員に「こんにちは」挨拶をしていました。薄暗かった校舎が少し明るくなった気がした。話したこともない先輩の私に声をかける、とても勇気がいる行動だ。それを実行する姿を見て、私は元氣をもらった。自分を人として、より高めていこうとする姿勢がこの行為につながったのだと思う。私たちは校外でも重点目標を意識した生活を送るようにしている。それを地域の方々が温かく見守ってくださっている。登下校中、道で会った人に挨拶すると誰もが笑顔で返してくれる。「頑張ってるね。いつてらっしゃい」と、声を掛けてくれる人もいる。近所の人との会話のきっかけにもなり、様々な年齢層の人と話をすると心が豊かになった気がする。

このような環境づくりは、児童、生徒の力だけでは成り立たない。地域の方たちの協力によって形成されている。小学校の頃、雨が降るなか壊れた傘をさして下校していたことがあった。その様子を見ていた、ボランティア活動「子どもを見守る会」の方が、「あなた傘壊しちゃったの？ちよつと、この傘持って行きなさいよ」と、声を掛けてくださった。おかげで濡れずに家まで帰宅することができた。「見守る会」の皆さんは、毎朝早くから通学路の途中に立ち、笑顔で挨拶してくださっている。私も、このように思いやりの心を持ち続けていきたい。

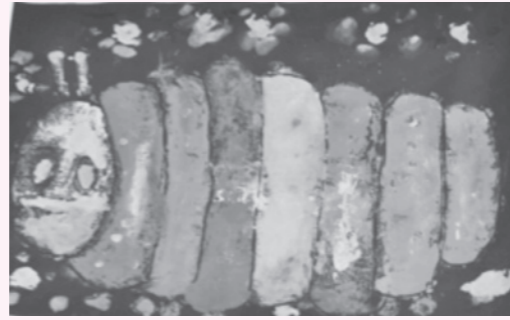
きた小さな行動が、形となって人の心を動かしたからだ。校内に広がっていった挨拶の輪は、地域にも発展していった。そして、動かしたものは人の心だけではない。町をも動かしたのだ。四つの学校の挨拶への取り組みが評価され、町全体の活動へとつながっていった。

一 一番身近な思いやりは、年齢性別、立場を問わない。誰かとすれ違うときに、たった一言かけてあげるだけで、それは最高の思いやりだと思う。周囲への感謝の気持ちを常に持って、みんなが温かい輪を広げていきませんか。

みんなの美術館



「表戸をふつとばす豆太」
下諏訪北小3年 古田 大貴（現4年）



「太っているいも虫君」
下諏訪北小3年 浜 柚乃（現4年）

教育委員会からのお知らせ

町民大学

演題：造化の妙～植物の不思議と感動～
講師：石川 勝三（自然探訪の会 代表）
日時：6月9日（日）午後1時30分～午後3時
会場：下諏訪総合文化センター2階集会室

春のフキノトウに雌雄があり、マムシグサは性転換します。野山で自然観察を重ねる中で、ただ美しいだけでなく、そこに長い進化の中でいかに子孫を残すか。絶妙な精緻な仕組みとからくりを驚きます。多くの事例を踏まえ、山歩きを楽しむ・目つきを紹介します。

きっと何気なく見た花々に、新たな感興を持たれることでしょう。（講師コメント）



果実



お花



め花

25/3/9（土）～4/7（日）写真展「見て学ぶ花々の営みと仕組み」より（マムシグサ）